

教科	地理歴史	科目	地理A	単位	2単位	年次	2年次
使用教科書	『高等学校 新地理A』(帝国書院)						
副教材	『最新地理図表GEO』						

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ◆ 人間は自然環境の枠を超えて生きていくことはできない。言い換えれば、自然環境をベースに産業や文化等の人間生活が成立している。この視点を常に意識し、授業で扱うテーマの理解・考察に努めてほしい。
- ◆ 授業で学習、考察、議論した内容を授業内容入力シートに記入し、毎回授業のあった日の23:59までに送信する。
- ◆ 教員から割り振られたテーマについてレポートを作成する。

2. 学習の到達目標

- ◆ 自然環境(気候・地形)と人間活動(産業・文化)を単体ではなく、複合体として理解・考察する。
- ◆ 系統地理的・地誌的に社会情勢の理解・考察を行う。
- ◆ 授業で扱うテーマの背景・事実を整理することで、論理的思考力を身につける。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断	c: 技能・表現	d: 知識・理解
観 点 の 主 旨	自然環境・人間活動に対する意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を地理的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	系統地理的・地誌的資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	自然環境に関する基礎的事項を人間活動と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業内容入力シート レポート プレゼンテーション	授業内容入力シート レポート プレゼンテーション 定期考査	授業内容入力シート レポート プレゼンテーション 定期考査	授業内容入力シート レポート プレゼンテーション 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	◆ 御当地キャラを作ろう ◆ ケッペンの気候区分 ◆ 気候要素と気候因子 ◆ 土壌と植生	◆ 任意の地点における自然、産業、文化等をコンセプトに取り入れた御当地キャラを製作し、そのプレゼンテーションを行う。 ◆ ケッペンの気候区分を用いて、世界の気候の成因や特徴を学習する。	○	○	○	○	◆ 御当地キャラの中に、御当地の自然、産業、文化等の地理的事象を盛り込むことができている。 ◆ 世界の気候の特徴を気候要素・気候因子に基づいて理解する。 ◆ 代表的な気候区分であるケッペンの気候区分を用いて、世界の気候環境を理解する。 ◆ 気候の特徴が端的に反映される土壌や植生の特徴を構造的に理解している。	◆ 授業内容入力シート ◆ レポート ◆ プレゼンテーション ◆ 定期考査
5								
6								
7								
8	◆ 御当地キャラを動かしてみよう ◆ 農林水産業	◆ 全学期に制作した御当地キャラを御当地と異なる地点に動かした場合、どのようなストーリーが展開するかを、空間的根拠を踏まえてレポートする。 ◆ ホイツルサーの農業区分、ケッペンの気候区分に基づいて世界の農林水産業の特徴を学ぶ。	○	○	○	○	◆ 御当地キャラのもつ地理的特徴と、移された先の地域の特徴とのマリアージュ、あるいは拒絶反応について考察できている。 ◆ ホイツルサーの農業区分に基づいて、世界の農林水産業の特徴を理解する。 ◆ 世界地誌の知識を踏まえて、地域ごとの農林水産業の特徴を理解する。	◆ 授業内容入力シート ◆ レポート ◆ プレゼンテーション ◆ 定期考査
9								
10								
11								
12	◆ 地形 ◆ 鉱工業	◆ 大地形と小地形 ◆ 鉱工業	○	○	○	○	◆ 安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯の成り立ちや人間生活との関わりを構造的に理解する。 ◆ 海岸地形や河川地形などの小地形の成り立ちや人間生活との関わりを構造的に理解する。 ◆ 地形が鉱工業に与えている影響について構造的に理解する。	◆ 授業内容入力シート ◆ レポート ◆ プレゼンテーション ◆ 定期考査
1								
2								
3								

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解

※原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。